

10 コンパスって？

コンパス？

フラメンコの世界に一歩足を踏み入れたなら、必ず耳にする言葉があります。それがコンパス。

コンパス？ 日本語では円を描く文房具や方位磁石を意味するこの言葉、スペイン語でも全く同じ意味でも使われます。ただし、スペインではそのほかにもフラメンコに限らず、小節やリズムの意味で使われることが多く、フラメンコでコンパスという時もリズムの意味なのです。初心者をお悩ませる、フラメンコに数ある曲種を区別する要素の一つであり、これを共通認識していることで知らない相手ともすぐに共演、一緒にフラメンコを楽しむことができるという、とても重要な、フラメンコの“鍵”なのです。

リズム・パターン

日本語でリズム、というとは、拍子の意味で使われることもありますが、フラメンコのコンパスは拍子そのものというよりも、アクセントの位置も含む

リズム・パターンだと考えるのがいいのではないのでしょうか。フラメンコのコンパスは、12拍を一つの単位として考え、そのどこにアクセントがあるか、という違いで区別しています。2でも3でも4でも割り切れる12という数字がポイントで、タンゴやファルーカなどの2拍子系、ファンダンゴやセビジャーナスなどの3拍子系、そして、ソレアやシギリージャのように8分の6拍子と4分の3拍子が組み合わさった、スペイン語でアマルガマとよばれるものなど、あらゆる曲種が、この12を一つの単位としてみることで説明できるのです。

この12を一つの単位としてみる考え方からフラメンコは12拍子と考えってしまう人もいますが、そうではありません。

2拍子系

2拍子系の曲の代表格は何と言ってもタンゴスです。アフリカ系キューバに起源を持つこの曲と同じように、ほ

かにも中南米と縁の深い、ルンバやコロンビアーナ、ミロンガやビダリータもそうですし、北スペインゆかりと言われるガロティンやファルーカもそうですね。

ただし、タンギージョは2拍子と思われることが多いですが、実は2拍子と3拍子が同時に演奏されている、ポリリズムなのです。その昔、パコ・デルシアの『カシルダ』やスーシ『ララチ』を聴いた時、「2拍子のはずなのに、3拍子に聞こえる」と悩んだのですが、実はこういうことだったのです。最初私は、「これは現代的な新しいタンギージョ」だと思っていたのですが、実はカディアスのタンギージョは昔からそうだったそうです。それを他地区の人が2拍子と理解して演奏していたのですね。また、このタンギージョのコンパスはティエントにも反映しているといえます。

3拍子系

フラメンコ舞踊教室で最初に習うことが多いセビジャーナスは3拍子系です。日本の音楽は古来ほとんどが2拍子で、日本人は3拍子に弱いと言われますが、フラメンコには3拍子系の曲が多く、最初にその洗礼を受けるわけですね。そのためよけいに難しく感じてしまうのかもしれませんが。なおセビジャーナスは3拍子ですが、リズムは6で取る、すなわち6拍を一つの単位としていき、これはファンダンゴ・デ・ウエルバも同じです。その他にも、ベルディアールスやルセーナのファンダンゴなど、アバンドラオとよばれる各地方のファンダンゴも3拍子系です。

アマルガマ

アマルガマとは異ったものの混合物のこと。ここでは3拍子と2拍子が組み合わさったリズムを言います。従来、3拍子系とされてきましたが、現在は分けて考えるようになりました。



タブラオでは練習なしのぶっつけ本番も多いのですが、いわゆる三位一体を支えているのもコンパスに他なりません。



コンパスの魔術師ディエゴ・カラスコのフランスでのコンパス・レッスン。初心者向けのクラスに出ただけでも楽しみは倍増します。

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 (朱字にアクセント) という、特徴的なリズムは、ソレアやアレグリアス、ブレリアスに共通するコンパスです。実際にはソレアは1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12と、アレグリアス系なら1 2 3 4 5 6 7-7 8 9-9 10 11 12と、とったりもします。

シギリージャは1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12と取り、ソレアを裏返しにしたような独特のリズムです。始まりの位置が違うものの、3拍子と2拍子のバランスは一緒。最近流行?の早いシ

ギリージャがブレリアとよく似ているのも当然です。なお、ペテネーラやグアヒーラだとこれが1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12となります。

これらはスペインの伝統的なリズムと通じるもので、スペインだけでなく中南米にも広がっています。ウエストサイド物語『アメリカ』や『ラ・マンチャの男』などのミュージカルでも使われていますね。

自由リズム

ところで、フラメンコの曲種の中にはリブレ、日本語で自由リズム、といわれるものがあります。タランタ、ミネーラなどのカンテス・デ・レバンテ、マラゲーニャ、グラナイーナ、またマルティネーテなどがこれに当たります。

このリブレ、自由という言葉から、自由に好き勝手なリズムで歌っていい、コンパスがない曲、と思ってしまう人もいますが、そうではありません。タンゴやセビジャーナスなどに比べてずっとゆっくり歌われ、演奏されるので見えにくいのですが、それぞれの曲にそれぞれのコンパスがあります。マラゲーニャやレバンテなどはファン

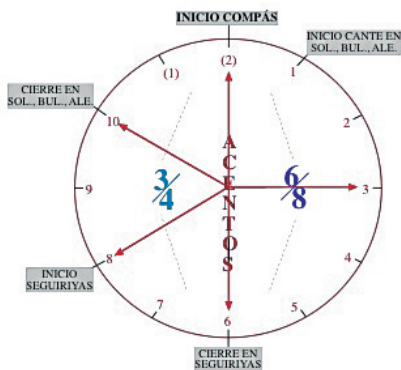
ダンゴに、マルティネーテやトナはシギリージャのコンパスに準じます。

コンパスは機械のようにずっと同じ調子で刻まれているようで、実際は、ゴムのように伸び縮みもします。どういう風に? それはひたすら聴くことでのみ、わかるようになるものではないでしょうか。耳をそばだて、全身でコンパスを感じましょう。いいコンパスに身をゆだねるほど気持ちのいいことはありません。コンパス感の良さは間の良さです。微妙な間合いを感じ取るのもフラメンコの醍醐味の一つに違いありません。



94年のしかぜ エンリケ・モレンテ、エボラ、イシドロ・ムニョスト。エンリケがイシドロらと組んだ公演『ア・オスクラス』は名作。CDがないのが残念です。

志風恭子/1987年よりスペイン在住。セビージャ大学フラメンコ学博士課程前期終了。パセオ通信員、通訳コーディネーターとして活躍。バコ・デルシアをはじめ、多くのフラメンコ公演に携わる。



フラメンコの時計 Faustino Nuñez
フラメンコ研究家ファウスティノ・ヌーニェスがアマルガマ系のコンパスを説明したフラメンコの時計。8から始まって締めは6のシギリージャス、1で始まって1で始まり締めは10のソレア、ブレリア、アレグリアス。速いスピードになるとシギリージャがブレリアに聞こえてきてしまうのもこれでわかりますか?